

秋田県の船絵馬について 一所在調査報告一

木崎 和広

1. はじめに

船絵馬は航海にあたって船主や乗組員が航海の安全を祈願するため、あるいは無事航海を終えた感謝として社寺に奉納されたものである。なかには航海中に漂流、遭難したものもあり、その供養や、幸いに危難をまぬがれたお礼に奉納されたものもある。時代的には近世初頭からみられるが近世後期から明治期に多くみられる。

秋田県内にみられる船絵馬の多くは、北国海運や西廻り海運に活躍した北前船である。図柄もいわゆる大阪の浪華絵師とよばれた専門の絵馬師の手になる絵紙貼りや刷絵に彩色したものが多いが、なかには杉板に手描きしたものも何点かみられる。また漁民の大漁祈願や報謝にも漁船や漁場の絵が奉納されている。ここに報告するのは51年8月から10月にかけての秋田県内の船絵馬奉納所在の調査概要である。

2. 近世秋田の海運交通について

船絵馬奉納の歴史的背景として、近世秋田の海運交通を概観してみたい。

戦国期に津軽安東氏が十三湊からの南下政策によって、その海上制覇とともに、能代檜山、男鹿半島、秋田土崎と拠点支配を拡大し、ついに秋田土崎湊域にその支配権を確立して秋田安東氏を名のり、米代川流域の浅利氏雄物川流域では戸沢、小野寺氏をおさえて領国支配を形成したが、このことは県北米代川流域の森林、鉱山資源と、雄物川流域の農産物を従来の海産資源に加えて、新たな領国経済の基盤とするにいたった。

秋田地方が豊臣統一政権のもとで、国内経済の中に組みこまれて、新たな商品流通経済の洗礼を受けるようになったのは、太閤蔵入地の指定（天正19年—1591—朱印状によれば、秋田氏知行高52,439石2斗7升3合、太閤蔵入地高26,244石8斗3升、合計支配分78,684石1斗3合）と、文禄2年（1593）と4年に課せられた大安宝船（軍船）・淀船（商船）の建造材と、伏見城建築用材の賦課によるものであった。太閤蔵入分はすべて換金算用によって上納するよう要請された。用材賦課は文禄2年（1593）から慶長4年（1599）までの7年間にわたり、用材数量4,227間、動員作業人夫延524,696人におよぶ大事業であった。この用材輸送はすべて揚陸港敦賀を経て京都に運ばれ、輸送業者として越前、越中、若狭、加賀、近江などの北陸、畿内の廻漕業者と船頭39名があたった。これらの中には朝鮮戦役に軍船、物資提供で豊臣政権と密接であった大廻漕業者や以前から北国海運に実績のあった有力業者がふくまれていた。また伐採搬送用のカスガイなどの金具や引綱などの材料も、下り荷として畿内の産物とともに秋田に運ばれた。こうして畿内と秋田を結ぶ政治経済と合わせて、北国海運交通が定着したのである。この当時の秋田の集積出入港として、米代河口の能代港と雄物河口の土崎港が繁栄するにいたった。

この北国海運交通は佐竹氏入封後も、その伝統的機能をもち揚陸拠点としての敦賀、小浜港を通じて、中央市場を結ぶ秋田の海運交通と経済の主要な役割を果たしたのである。秋田からの移出品として、米、大豆、小豆、材木、ソバ、菜種、漆、タバコ、干わらび、干魚、鮎物などの蔵物や農産物が敦賀、小浜港で揚陸され、さらに大津、京都、大阪に廻送された。一方畿内先進商業圏よりは、出羽下り荷として、木綿、古着、塩、砂糖、茶、紙瀬戸物、畳表などが敦賀、小浜を通じて移入された。またそれらの地に秋田藩蔵宿、秋田筋商人宿として活躍した商人がいたことも知られている。この北国海運に対抗して、積替手数を打開する名目で利用された瀬戸内海廻り大阪直送の西廻り海運が、18世紀には定着し優位を占めることになった。津軽海峡を経て太平洋廻りで、秋田藩が土崎港より蔵米5千石を江戸に直送したのは享保7年（1722）であった。この東廻り海運の利用は享保以降宝暦期にはいつてからであるが、市場関係からも西廻り海運にはおよばなかった。また松前海運も早くから開かれていたといわれる。そのことは元和5年（1619）の久保田（秋田城下）町人の松前での逮捕事件（手形不所持による）寛文9年（1669）の蝦夷反乱事件に関連して、松前通い商人からの秋田藩庁の事情聴取と、米百石の松前廻送などの事例によっても知ることができる。

近世の港町については、寛文11年（1671）の沖口出役銀請役制度によって、久保田（土崎）・野代（能代）・船越・船川・北浦・渡鹿（戸賀）の6ヶ所が交易港として、また由利本荘藩では、古雪（本荘）金浦・塩越（象瀧）港が利用されていた。さらに明治6年（1873）の羽後国秋田県地誌提要による港湾規模は次のようであった。

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1. 能代 大船凡100艘を繋ぐ | 2. 戸賀 大船凡30艘を繋ぐ |
| 3. 船川 大船凡50～60艘を繋ぐ | 4. 土崎 大船凡130艘を繋ぐ |
| 5. 松ヶ崎 500石積以下 6～7 艘を繋ぐ | 6. 古雪(本荘) 大船凡80艘を繋ぐ |
| 7. 平沢 600石積以下 5～6 艘を繋ぐ | 8. 三森 250石積以下 5～6 艘を繋ぐ |
| 9. 金浦 400石積以下 5～6 艘を繋ぐ | 10. 塩越(象潟) 700石積以下 7～8 艘を繋ぐ |

大船とは千石積の和船で、明治初期の秋田の船はそれぞれの港の規模と機能に対応した和船が多かったと考えられる。

また日本海の荒波は、多くの遭難や漂流などの危険に満ちていた。手元の資料に散見する事件をひろってみることにする。

① 朝鮮国漂着事件

羽州秋田能代清助町	与三郎 39歳	三郎兵衛
同所同町	勘四郎 38歳	萬太郎

私共儀大阪長浜屋源右衛門、能代越前屋久右衛門持合の船 850 石積、沖船頭大阪阿治川平三郎14人乗組
 先年7月1日米少々積能代出船 5日松前箱館入 昆布干鮭積受 8月26日出船、航海中9月1日より大風
 雨合朝鮮国漂着、保護取調上釜山港で11月2日日本国対馬船に引渡され翌年2月18日釜山港出船、対馬港
 経由で4月19日14人大阪御番所引渡となった。能代者2人は大阪表御用聞雑賀屋七兵衛御預となった。

享保11年(1727)4月23日 調書

(代呂見聞録)

船名記録のないのが残念であるが、漂着船が大阪と能代商人の共同持船であったこと、乗組員は大阪9人下関3人能代2人の構成で、能代→松前→大阪の交易コースであったことなども知られる事件であった。

② 英国船沈没事件

明治2年12月19日、山本郡沼田村と竹生村の入合浜沖で、箱館港より清国上海に渡航中降雪暴風のため、英国船アイザユアリー号が沈没。乗組員11名中、船主グラムと洋犬のみが強波に打ちあげられて助かり、能代廻船問屋村木新三郎等が世話をし、明治3年2月16日箱館商館に送られた。明治5年には船主より柱時計、翌6年には英国政府より望遠鏡が謝礼として送付されてきた。明治22年までに沈没船(鉄船)の船体の一部が引きあげられ村木新三郎等の関係者によって遭難者供養碑建立が計画された。(秋田沿革史大成下巻)

③ ロシア士官等漂着事件

明治16年11月19日ロシア海軍士官アバサアレキセイ、商人カレツキイ、中国船員16名(内1名死亡)が、浦塩港(ウラジオストック)出航後、嵐にあって船川湾に漂着し保護された。ロシア士官一行は間もなく船川港に寄港した新潟の汽船北洋丸に便乗して箱館に送られたが、この時ロシア士官アバサアレキセイは、船川村沢木駒吉より旅費120円を借用して帰国した。借金は公使館より約束通り返され、ロシア政府はこれらの好意に感謝して勲章を届けた。(秋田沿革史大成下巻)

はるかに装備航海術にすぐれていたと考えられる外国船の遭難事件が相ついでいたことは、当時の航海の厳しさと、海上生活者の危険の大きかったことをもの語るものである。それ故にいっそう海上安全の祈願心情が高かったのである。

3. 船絵馬調査の経過

秋田県の海岸線は日本海に沿って南北に走り、中央部から北の位置に男鹿半島が大きく突出して変化をもたらしている。百数十軒をこえる海岸地帯は、米代川河口能代からの北海岸、男鹿半島から雄物川河口秋田にいたる中央海岸、子吉川河口本荘から象潟にいたる南の由利海岸にわけられる。北から調査地として選んだ港は、岩館八森、能代、北浦、船川、船越、秋田(土崎)、本荘、金浦、象潟の10ヶ所とその周辺地域であった。

岩館、八森は天然の地形を利用する古い漁港であり、八森は近世八森銀山の開発によっても知られるが、この地域は八森白瀑神社、岩館神明社を調査したが1点もなかった。神明社の古い石造鳥井に「奉納 海上安全 文化十三年丙子年正月吉日 願主 三観一丸 藤蔵」の記銘を発見しただけである。

能代は中世以来の米代川河港として繁栄したところで、有力な船主商人も多くいたが、由緒ある八幡神社、住吉

神社などがいずれも2度にわたる大火で焼失しているためか、古い絵馬類などはまったく残していなかった。ただ八幡神社の花崗岩造りの大鳥井に「備前邑久郡尾海 平野平吉、安永四年」の記銘と、境内の隅の古い手水鉢に「奉納 寛延二年 船頭中」の記銘を残すのみであった。

中世以来海上安全祈願と密接な関係があったと思われる男鹿半島の本山、真山神社にも認めることができなかった。本山日積寺永禅院も、真山光飯寺も明治初年に廃絶したことにも一因がある。但し真山神社の古い奥宮堂の壁面の内外に記されたおびただしい落書記名のなかに、数多くの他国の船頭、船員と思われる人々の名があることが報告されているので、この神山両社が海上安全祈願の機能を果していたことに変わりはない。北浦日吉神社も火災にあったことが資料を残さなかった理由であろう。

秋田土崎港地区でも、由緒ある神社として大商人の信仰を得たと思われる、土崎神明社、金比羅神社、古四王神社、山王日吉神社などでは1点も確認できなかった。土崎神明社に「出羽鶴田郡土崎湊社 願主 摂州大阪泉屋平兵衛、享保拾参戊申歳 初夏吉日」とかすかに墨書きが読みとれる、大型の廃棄された賽銭箱のあることを確認したのみであった。

由利海岸においても、本荘八幡神社、港岸の住吉神社、西宮神社（金比羅宮）などにもなく、また海上安全と大漁祈願のカケヨ祭りでも有名な金浦神社でも確認することができなかった。

このことは火災等による災害、各社の内部的変遷や改築、神職の交代、戦後を契機とする地域信仰の変質・崩壊のなかで、船絵馬などという信仰資料が無関心に処分整理された事情にもよるものであろう。秋田県においてはこれら絵馬信仰等の領域についての研究調査はまったく手がついていないので、記録資料の上でも手がかりが得られず、今後の裏づけ調査にまたなければならぬであろう。

秋田の船絵馬奉納について今度の調査結果から考察すれば、近世江戸期は県内わずかに3点（青森深浦円覚寺に3点）で、明治期に多く集中している傾向から、県内の船主、船頭、船員の活動がこの時期によく拡大したものであろう。先の朝鮮国漂着事件にみられるように、廻船の所有についても能代商人は、大阪商人との共同所有であり、乗組員も県人はわずかに2人にすぎなかった。船絵馬奉納にあたっては、江戸後期から明治期に大阪などの浪華絵師によって、絵紙や刷絵が多量に売りだされ、容易に購入できた事情にもよるものであろう。また比較的著名な旧総鎮守社に奉納例が少なく、農村部の小社や氏神社に多く奉納されていることは、海上労働者としての乗組員の多くが、農村出身者であったことを裏づけていると考えられる。今度の調査範囲でも、港町より遠い農村地帯の小社の薄暗い拝殿の中で、無名の船人たちの遠く深い祈りの形骸を探し求めて歩いた思いがあった。

4. 船絵馬の所在と分布

今度の調査で確認された船絵馬の所在分布や時代別数は表1、表2のごとくである。調査対象箇所は34ヶ所（表3）、そのうち所在分布は14ヶ所、37点であった。時代別にみると、近世江戸期は文化13（1816）年天保12年（1841）・嘉永7年（1854）の3点を初見したにとどまった。明治期は北前船の22点を中心に種類も多く27点を数えた。大正期からは激減して北前船1点、洋帆船2点、その他1点の計4点。昭和期は洋帆船2点とワラ製和船を加えて3点だけであった。船と信仰に対する海上生活のかかわり合いが時代とともに変化してきたことをもの語っている。

調査確認した船絵馬は次のようなものである。

① 大運丸

所 蔵 能代市向能代 稲荷神社
奉 納 者 大運丸 小川与七
奉納年月 明治24年8月8日
(45.7×33.2cm)

杉板に手描き彩色したもので大波にのまれる北前船の遭難絵馬である。今度の県内調査ではこれ1点のみであった。

秋田県内船絵馬 神社別所在数 (表1)

No.	社 名	所在市町村	和船	洋帆 船	その 他	計
1	稲 荷 社	能代市向能代	11	0	5	16
2	金比羅神社	能代市鶴形	0	2	0	2
3	金比羅宮	山本町志戸橋	3	0	0	3
4	中間口神社	男鹿市中間口	1	0	0	1
5	星 辻 社	男鹿市湯本	0	2	1	3
6	北野 天神	天王町上出戸	2	0	0	2
7	堀内 神社	秋田市堀内	1	0	0	1
8	羽黒 神社	秋田市中野	2	0	0	2
9	竈 社	秋田市土崎	0	0	1	1
10	熊野 神社	秋田市豊岩	1	0	0	1
11	神 明 社	秋田市豊岩	1	0	0	1
12	船玉 神社	協 和 町	2	0	0	2
13	象瀉 神社	象 瀉 町	2	0	0	2
14	船着八幡神社	象 瀉 町	1	0	0	1
	計		26	4	7	37

昭和51年8月～10月調査（宝船は含まない）

② 仲吉丸

所 蔵 能代市向能代 稲荷神社
 奉 納 者 仲吉丸 興市
 奉納年月 明治29年12月9日
 (60×42cm)

杉板に貼り絵紙の北前船で、破損、剥落のものも合わせて同種のもの10点がある。

③ 大漁絵馬

所 蔵 能代市向能代 稲荷神社
 奉 納 者 網主熊谷吉五郎等11名
 奉納年月 大正5年6月13日
 (153×77.5cm)

杉板に彩色した鯛網の大漁絵馬で、大漁に喜んで網をひく漁民の情景があふれている。鯛の大漁に報謝して土地の網主11名が奉納した大絵馬で、これを描いた「琴村」は高名な岡田琴湖の弟子で明治から大正期に能代に居住した画家である。ほかに板絵1点と明治期の紙絵3点がある。

稲荷神社は、明治23年頃に焼失し再建されたといわれ、それ以前の船絵馬は残っていない。

④ 洋帆船 (船名記入なし)

所 蔵 能代市鶴形 金比羅神社
 奉 納 者 能代市赤沼 大久保儀助
 奉納年月 昭和12年10月30日

杉板に手描き彩色したもので、同種のものがもう1点ある。

⑤ 幸運丸

所 蔵 山本郡山本町志戸橋
 渡部家氏神金比羅宮
 奉 納 者 袴田長吉
 奉納年月 明治19年旧8月15日
 (27.5×21cm)

刷絵紙貼り着色の北前船絵馬である。

⑥ 福德丸

所 蔵 山本郡山本町志戸橋
 渡部家氏神金比羅宮
 奉 納 者 (不詳)
 奉納年月 明治〇〇年9月〇〇
 (26.5×42cm)

刷絵紙貼り着色の北前船であるが、剥落が多く奉納者、奉納年は読みとれない。

⑦ 船名 (記入なし)

所 蔵 山本郡山本町志戸橋
 渡部家氏神金比羅宮
 奉 納 者 山本郡金岡村志戸橋 袴田竹義
 奉納年月 大正3年9月28日
 (38×27.2cm)

⑧ 船名 (記入なし)

所 蔵 男鹿市中間口 中間口神社
 奉 納 者 當村 三浦東市
 奉納年月 文化13年〇〇
 (30×8cm)

杉板に墨描きした船絵馬残片であるが、帆柱の一部と奉納年月の一部と奉納者が読みとれる。今度の調査で確認した秋田県内でもっとも古い文化13年(1816)の記年がある貴重資料である。

⑨ 洋帆船 (船名記入なし)

所 蔵 男鹿市湯本 星辻神社
 奉 納 者 岩手県下閉郡船越村 川村重吉
 奉納年月 大正6年7月
 (41×33cm)

二本マストの帆船で、木製のはりつけ立体細工である。奉納者が岩手県人であることが知られる。

⑩ 洋帆船 (船名記入なし)

所 蔵 男鹿市湯本 星辻神社
 奉 納 者 湯之尻 三浦保吉
 奉納年月 大正12年正月吉日
 (45×42cm)

二本マストの帆船で木製のはりつけ立体細工に彩色した手のこんだものである。

秋田県内船絵馬 時代別数 (表2)

時代	種 別			計
	和 船	洋帆船	その他	
江戸期	3	0	0	3
明治期	22	0	5	27
大正期	1	2	1	4
昭和期	0	2	1	3
計	26	4	7	37

昭和51年8～10月調査

⑪ 福神丸

所 蔵 男鹿市湯本 星辻神社
(55×45cm)

奉納者も奉納年月も不明であるが、ワラ縄細工の川崎船の模型絵馬である。船名をあらはす福神丸の紙の旗印がついているが保存状態などから判断して昭和期のものと思われる珍しい資料である。星辻神社は明治以前の妙見社で北斗七星を祀り、海上安全に靈験があった。男鹿の北磯では送り盆の精霊流しに、麦ワラや稲ワラの舟を作って海に流した習俗が残っていたので、その応用でワラ細工の船絵馬が奉納されたのであろう。

⑫ 栄徳丸

所 蔵 南秋田郡天王町上出戸 北野天神
奉納者 当村 菊地捨五郎
奉納年月 明治20年旧8月30日
(36×25cm)

刷絵紙貼りの北前船である。

⑬ 栄徳丸

所 蔵 南秋田郡天王町上出戸 北野天神
奉納者 南鱒田郡農農村字上出戸 菊地清蔵
奉納年月 明治22年旧8月30日
(24×37cm)

杉板に刷絵紙貼りの北前船。絵柄は鱸真向き図で乗員なども配した珍しい情景構図で、黒塗りの枠に銅板の飾打がある。

⑭ 萬徳丸

所 蔵 秋田市下新城堀内 堀内神社
奉納者 渡辺多市
奉納年月 明治29年申4月7日
(86.5×55cm)

杉板に手描きの北前船絵馬で、船名がようやく判読できる。渡辺家は今は当地に居住していないという。

⑮ 船名(記入なし)

所 蔵 秋田市下新城中野 羽黒神社
奉納者 南秋田郡下新城村字中野 渋谷豊吉
奉納年月 明治44年旧12月18日
(40×28cm)

杉板に手描き彩色の北前船絵馬である。図柄は他の様式化された船絵馬と違って写実的に斜め前方から描かれている。絵心のある奉納者自身か、専門家に依頼したものであろう。

⑯ 船名(記入なし)

所 蔵 秋田市下新城中野 羽黒神社
奉納者 南秋田郡下新城村中野 中川正治
奉納年月 (記入なし)
(39.5×29.5cm)

杉板手描き彩色の北前船絵馬であるが、いかにも素人くさい図柄であり奉納者の手になるものであろう。

⑰ 渡海船

所 蔵 秋田市土崎港相染 籠神社
奉納者 北島五助 伊藤富蔵 佐藤宗之助 村山松之助 石田久松
奉納年月 明治25年壬申5月7日
(190×91cm)

神功皇后三韓征伐の渡海の絵にあやかった港の船頭衆の祈願大絵馬である。絵師霊山翁昌一は明治・大正期に秋田に居住した画家渡辺昌一である。

⑱ 神徳丸

所 蔵 秋田市豊岩 熊野神社
奉納者 鈴木〇〇
奉納年月 嘉永7年3月吉日
(60×78cm)

杉板に手描き彩色の北前船絵馬である。県内には数少い江戸後期のものである。

⑲ 船名(記入なし)

所 蔵 秋田市豊岩 神明社
奉納者 佐藤辰蔵
奉納年月 明治35年旧6月吉日
(77×88cm)

前者と同じく杉板に手描き彩色したものである。

⑳ 船名(記入なし)

所 蔵 仙北郡協和町野田 船玉神社
奉納者 河辺郡四ツ小屋村 清助
奉納年月 天保12年丑4月8日
(52×49cm)

杉板に手描き彩色した北前船絵馬で、彩色はかなり剝落し枠縁はないが、図柄は確かだ絵馬師の手になるものであろう。男鹿中間口神社奉納の残片絵馬に次ぐ江戸期の完形資料である。

⑳ 船名（記入なし）

所 蔵 仙北郡協和町野田 船玉神社
 奉納者 岩見三内村岱 佐藤清安 佐藤清 佐藤
 キクヨ
 奉納年月 （記入なし）
 （61×60cm）

杉板に手描き彩色した北前船絵馬で、正面から描いた構図で、保存状態などから推定して記年はないが明治期と推定される。海岸より遠い農村部であるが船玉神社は、神功皇后三韓征伐の帰国途中上陸して船霊大神を祀ったという縁起伝承をもつ古い海上守護神とされていたので、乗組員とその家族が祈願奉納したものであろう。

㉑ 安寧丸

所 蔵 由利郡象潟町 象潟神社
 奉納者 当村須田安右衛門
 奉納年月 明治8乙亥年6月吉祥日
 （98×75cm）

杉板に絵紙貼りの北前船絵馬である。安寧丸の旗印と絵馬藤筆の署名があり、彩色図柄も秀れ、さすが大阪の絵馬師による典型的な作品である。今度の調査で北前船絵馬に絵馬師の名があるのはこれ1点だけであった。奉納者須田安右衛門はこの地の船主であった。

㉒ 福寿丸

所 蔵 由利郡象潟町中橋 船着八幡神社
 奉納者 佐々木末吉
 奉納年月 明治18年旧8月
 （47.5×35.5cm）

杉板に絵紙貼りで先の安寧丸と良く似ている。船員数、帆印など若干の相違があるがこの船絵馬も大阪の絵馬師の手によるものであろう。この神社には10年前の改築時には10点程の船絵馬があったというが、現在ではこの1点だけが残っていた。おそらくもっとも保存が良かったため残され、他は処分されたものと思われる。

文化財としての絵馬の保存が早急に望まれる。

船絵馬の確認できなかった調査神社（表3）

No.	神社名	所在地	No.	神社名	所在地
1	神明社	岩館	11	神明社	秋田
2	白瀑神社	八森	12	日吉神社	秋田
3	八幡神社	能代	13	金比羅神社	秋田
4	住吉神社	能代	14	住吉神社	本荘
5	北浦神社	男鹿	15	西宮神社	本荘
6	真山神社	男鹿	16	八幡神社	本荘
7	八幡神社	男鹿	17	金浦神社	金浦
8	神明社	男鹿	18	（蛸満寺）	象潟
9	八坂神社	天王	19	熊野神社	象潟
10	古四王神社	秋田	20	腰掛八幡神宮	象潟

昭和51年8～10月調査

（表1の所在神社と合わせて総調査対象神社は34ヶ所）

5. 参考資料として

関連資料を求めて隣接する北の津軽深浦港を調査した。

青森県西津軽郡深浦町、春光山門覚寺は、明治初年まで真言系醍醐派の修験寺で海上安全の祈願所として有名であった。本堂には今も百点におよぶ船絵馬がぎっしりと奉納されており、その中に秋田県関係のものが、江戸期の天保、安政年間のもの3点をふくめて次の9点が確認された。

① 順宝丸

奉納者 羽後国山本郡横間邑 工藤喜一郎
 奉納年月 天保8年8月吉日

③ 久栄丸

奉納者 秋田能代 喜七
 奉納年月 安政5年10月吉祥日

⑤ 長久丸（難船）

奉納者 秋田県能代長久丸上乗木田橋定吉
 奉納年月 明治10年2月

⑦ 神徳丸

奉納者 秋田県羽後国滝下邑 船頭石黒幸助
 奉納年月 明治16年8月30日

② 永須丸

奉納者 秋田能代柳町 越後屋喜七
 奉納年月 天保10年4月11日

④ 佐福丸

奉納者 羽後国山本郡能代 本庄民蔵
 奉納年月 明治6年7月

⑥ 丙福丸

奉納者 羽後国由利郡（氏名不詳）
 奉納年月 明治11年10月27日

⑧ 三吉丸（難船）

奉納者 秋田県山本郡能代萬町 平川孫兵衛手船
 萬吉
 奉納年月 明治29年旧8月〇〇

⑨ (船名不詳)

奉納者 秋田県羽後国新屋百三段 高橋熊吉

奉納年月 (不詳)

(長久丸、三吉丸の難船絵馬は手描きであるがほかの7点はすべて刷絵紙ばりの彩色絵である。)

また境内にある国重要文化財薬師厨子堂をいれる瑠璃殿内に、日本最古と伝えられている貴重な大船絵馬が保存されている。寛永拾歳 越前敦賀住 庄司太郎衛門の記銘があり、横154×縦96.5cmの大型で、檜材に、割り下り藤の帆印と両舷に11本の櫂を備えた北国船の全景を横から描いた極彩色の名残りととどめる珍らしい図柄である。岩井宏美著「絵馬」によれば、大阪杭全神社に寛永4年(1627)奉納の末吉船を最古としているが、横60cm位の小型であるという。先進地大阪の海外貿易の豪商末吉の奉納におくれることわずかに6年、北国海運に活躍した越前の廻船業者と北国の荒海を航海した船人たちの歴史を語る大絵馬は、日本最古の位置をゆずっても、日本海歴史の貴重な資料として注目に値する。深浦円覚寺とならぶ出羽海岸の海上安全祈願所である、南の庄内善宝寺は残念ながら未調査のため割愛した。いずれ機会を得て確認の調査を急ぎたいと考えている。

追記

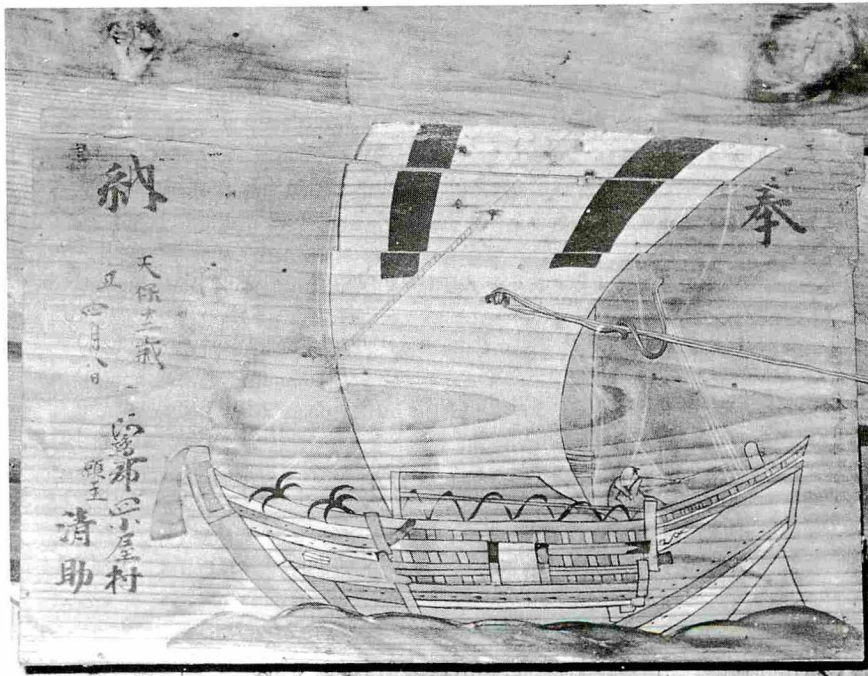
この調査報告は「羽後(秋田)の船絵馬」(日本の船絵馬—北前船—所載昭和52年3月柏書房)として発表したものに、その後の継続調査の成果をもとに全面的に加筆構成したものである。

なお秋田県内の奉納絵馬の所在分布や特徴については、美術部門の「秋田の絵馬展」(52年1月～4月)を機会に美術担当の皆川忠彦と太田和夫が調査にあたった。いずれ概要報告がなされる予定なので合わせて参照願いたい。

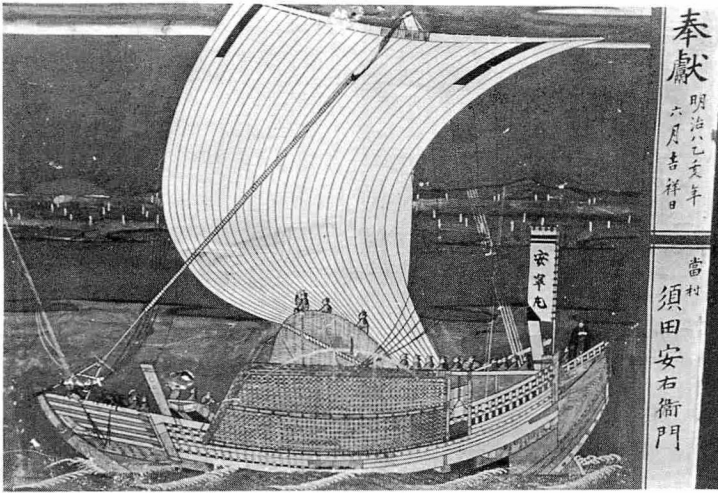
今度の船絵馬調査にあたって、磯村朝次郎・太田和夫(本館職員)のほか長山幹丸・福田稔氏などの協力を得たことを謝して付記する。

参考資料

- 秋田県史2巻 近世編上(秋田県)
- 秋田県史3巻 近世編下(秋田県)
- 秋田沿革史大成下巻(加賀谷書店)
- 絵馬 岩井宏美著(法政大学出版局)
- 新秋田叢書4巻 (歴史図書社)



北前船絵馬
天保12年
協和町船玉神社蔵



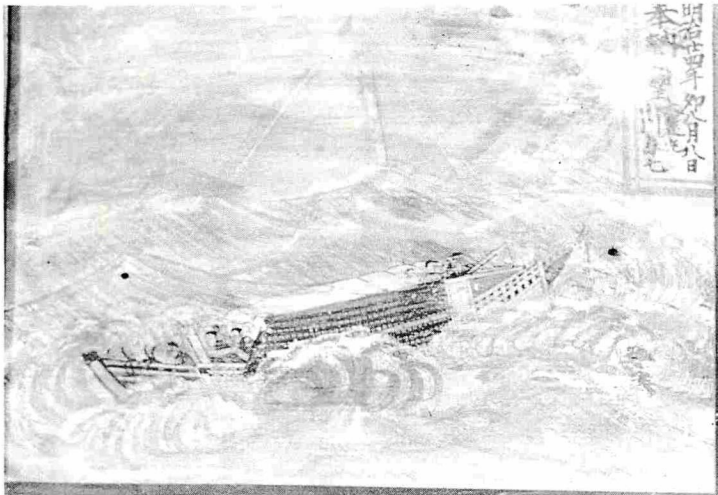
奉獻

明治廿七年
六月吉日

雷村

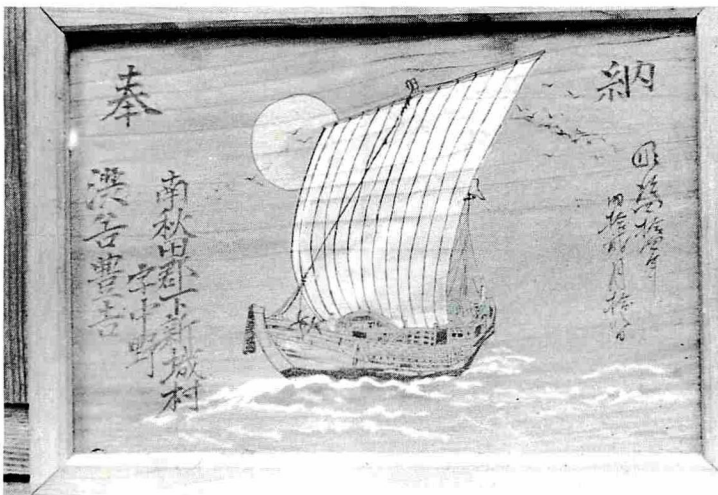
須田安右衛門

安寧丸 絵馬藤筆 (北前船絵馬)
象潟町 象潟神社蔵



明治四年四月八日
奉獻
大運丸

大運丸 (遭難絵馬)
能代市 稲荷神社蔵



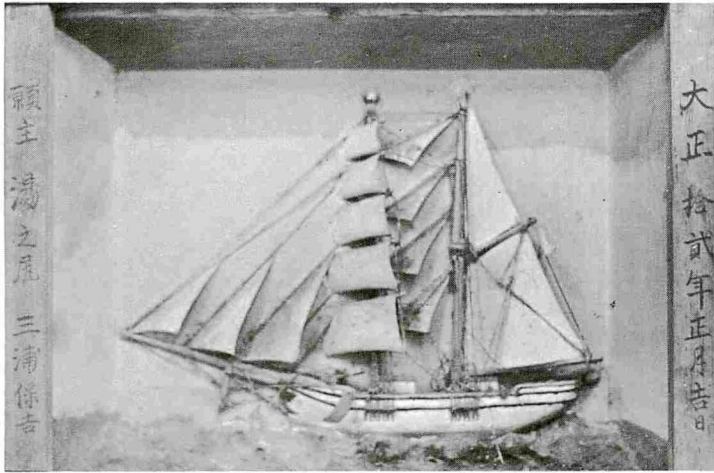
奉

南秋田郡赤松村
字中野
洪吉豊吉

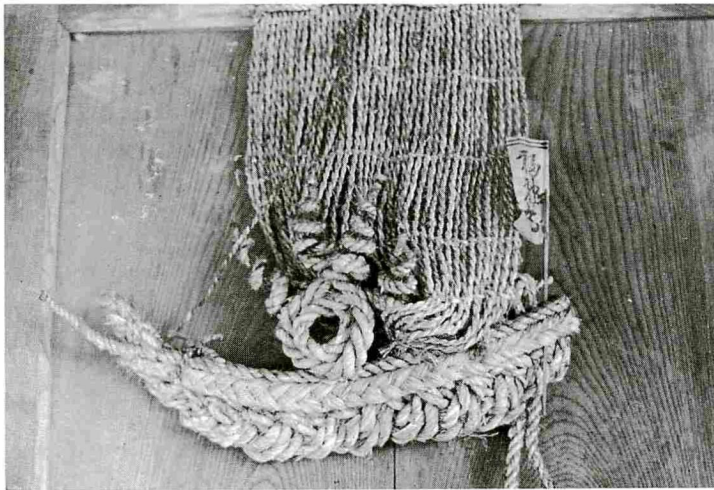
納

明治廿七年
四月吉日

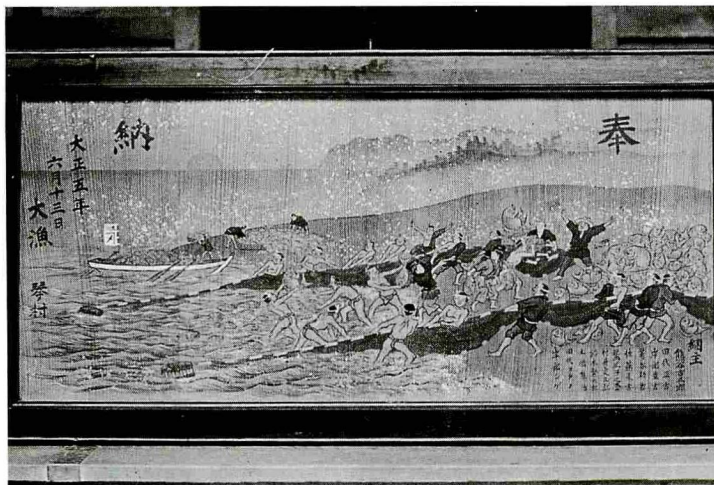
北前船絵馬 (手描き彩色)
秋田市 羽黒神社蔵



洋帆船絵馬
男鹿市 星辻神社蔵



福神丸 (ワラ縄細工の和船絵馬)
男鹿市 星辻神社蔵



大漁絵馬
能代市 稲荷神社蔵